

# 「てん茶」製造の動き続々

国内外で需要が高まっている抹茶の原料「てん茶」製造に向けた動きが、製茶業界で広がっている。鹿児島堀口製茶(志布志市、堀口泰久社長)は、海外市場を見据えた大規模なてん茶加工施設を新設。JAあおぞら(同市)は京都の茶商などと組み、「べにふうき」を使ったてん茶の開発に乗り出す。消費者のリーフ茶離れで価格低迷する中、茶の新たな需要拡大を目指す狙いだ。

## 抹茶原料、国内外で需要増

### 鹿児島堀口製茶 大型加工施設を新設 JAあおぞら べにふうき使い開発



鹿児島堀口製茶の新工場は11日に落成式が開かれた。年間250トンのてん茶生産が可能な

ラインを持ち、4月末に稼働を始める。生産規模は国内最大級となりえる。

てん茶を作るライ

需要が高まっている海外向けが大半で、一部は自社で抹茶に仕上げて小売りもする。落成式で堀口大輔常務は「海外市場を見据えた工場になつていていた」と語った。

J Aあおぞらは4

日、北川半兵衛商店(京

都府宇治市)などと、

べにふうきを原料とし

たてん茶の開発、製造

を目指すことで基本合

意した。

として動き出すほ

か、海外向けのオ

ガニックのせん茶や

ウーロン茶、紅茶も作

つていきたい」と語っ

た。

J Aあおぞらは今

茶にする例はこれまで

なかつたとい

J Aあおぞらは今

茶への加工が難しい

とされ、単一品種で抹

茶品種のため

人気が高い。ただ、も

ともと紅茶品種のため

にふうきはアレル

ギーを抑制する効果が

あるとされるメチル化

カテキンを多く含み、

人気が高い。ただ、も

ともと紅茶品種のため

にふうきはアレル

ギーを抑制する効果が

いく。販売先は後から

ついてくる」と強調した。

(見美川勝)

●抹茶原料のてん茶を製造するラインを見学する関係者=11日、志布志市有明の鹿児島堀口製茶(↑)べにふうきを原料にしたてん茶開発、製造、販売で合意したJAあおぞらや京都の茶商ら=志布志市有明

ん茶用に充て、状況を見ながら徐々に広げていく方針だ。茶業課の取違弘一調査役は「機能性食品として脚光を浴びており、てん茶としての普及を図りたい」と期待。北川半兵衛商店の北川直樹専務は「産地の鹿児島とのコラボでいい